

正確な年金知識の獲得と 年金制度に対する信頼度

村上雅俊

2012年6月9日

日本年金学会 関西特別部会

於 同志社大学 今出川校地 寒梅館KMB203教室

アウトライン



1. 研究動機
2. 研究動向
3. 分析に用いた調査
4. 分析方法
5. 分析結果
6. 今後の課題

研究動機

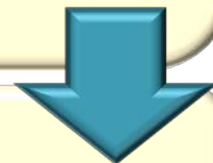
- 2011年9月末の国民年金保険料の納付率
→ 55.3%
 - 国民年金保険料未納率の上昇に歯止めがかかっていない
 - 要因
 - 低所得や低貯蓄による「流動性制約」仮説
 - 「本人の予想寿命との関係から生じる逆選択」
 - 「世代間の不公平感」仮説
- Etc.

研究動機

- 保険料の納付行動に影響する要因は様々
- 保険料未納率上昇の背景に，年金制度への信頼度の揺らぎがあると仮定

- 盛山和夫（2007）
 - 「国民年金も厚生年金も入って損はしないようにできている」（p.13）
- 国民年金：平均寿命まで生存した場合の給付の総額が，加入期間の保険料の支払額の総額を大幅に上回る

- 2005年で50歳の場合「3.4倍」
- 20歳代で「1.7倍」
（厚生労働省『平成16年 財政再計算結果（報告書）』）



研究動機

- 未納率の上昇に歯止めがかからないのは？
- 国民が年金制度に関して正確な知識を持っていないからではないか（仮説）

● 年金制度に関する正確な知識の獲得

● 年金保険料を納付することは損ではない
（認知・認識）

● 年金制度への不信に歯止め

● 納付率を上昇させる・・・？

アウトライン

1. 研究動機



2. 研究動向

3. 分析に用いた調査

4. 分析方法

5. 分析結果

6. 今後の課題

研究動向


- 厚生労働省『国民年金被保険者実態調査』
 - 公的年金制度に対する「周知度」：
「早割制度，基礎年金の国庫負担，任意加入，追納制度及び若年者納付猶予については周知度が40%以下と低い」と指摘（厚生労働省年金局：2010）
- 駒村康平（2008）
 - 年金知識に関する詳細な分析
 - 年金制度に対する体系的な情報の普及など，年金改革のための適切な「議論のルール」の確立が不可欠と指摘

研究動向

- 佐々木一郎（2007）：
 - 年金保険料未納の要因としての「親の関与度」
 - 親の関与度が大きいほど子の年金未納確率が顕著に低くなることを確認
 - 未納者個人に対する年金政策の限界と「家族単位での年金未納対策」「金融・年金教育の強化」の必要性を指摘
- 都村敦子（2006）：
 - 学校教育における年金教育の重要性を，特に，世代間の連帯という点から指摘
 - 各地の社会保険事務所が行っている年金セミナー・実施アンケートの内容を詳細に分析
- 他にも，石田重森（2007），坂口正之（2005）の研究がある

研究動向

- 「熟議民主主義」：一般市民が政策の形成過程に参加する試み
 - 文部科学省（2010）：
 - 多くの当事者による『熟慮』と『討議』を重ねながら政策を形成していくこと
 - 1. 多くの当事者が集まって
 - 2. 課題について学習・熟慮し，討議をすることにより，
 - 3. 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに，
 - 4. 解決策が洗練され，
 - 5. 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる，
- （文部科学省:2010）

- 
- 年金制度問題に対する熟議とすると・・・
 - 2.の「学習・熟慮」がどの程度なされるかによって，年金制度への認識は当然異なる
 - 後のプロセスが変わっていくことが予想される。
 - Exp. 慶應義塾大学DP研究センター「討論型世論調査」

研究動向

- 年金に関する情報の普及，年金教育の重要性を指摘している点で大変意義がある
- ただし，多くの研究は，標本の規模が小さく，年金制度に関する情報を得た場合・年金教育を受けた場合とそうでない場合の差異は明らかではない
 1. 標本の規模を大きくし，結果の頑健性をできるだけ確保
 2. 年金制度に対する信頼度に注目し，実際に年金に関する知識を得た層とそれを得ていない層の間で年金制度に対する信頼度が変化するのか否か（認識が変わるのか否か）

アウトライン

1. 研究動機
2. 研究動向
3. 分析に用いた調査
4. 分析方法
5. 分析結果
6. 今後の課題



分析に用いた調査

- 2010年1月と3月に、**同一個人に対して2度にわたってWeb調査**（RISS調査と略記する）

	第1回目	第2回目
調査期日	2010年1月15日 ～ 2010年1月28日	2010年3月10日 ～ 2010年3月15日
	割り当てのための 事前調査を含む	割り当てのための 事前調査を含む
調査対象	国民年金第1号・第2号・第3号被保険者 (学生を除く)	
調査対象者の年齢	20～59歳	
標本規模	6919	5226
調査会社	マクロミル	

分析に用いた調査

- 標本の代表性を出来るだけ失わないように
 - 標本の属性分布が母集団の属性分布に適合するように、**事前に性・年齢・被保険者番号別の目標回収数**を定める（厚生年金保険・国民年金事業年報より、**参考資料**を参照）
 - 定めた回収数まで登録モニターの回答を受け付ける
 - 国民年金第1号～第3号被保険者
 - Web調査であるため、調査対象者は、Web調査会社に登録しているモニター
- Web調査は、郵送調査等と比較して、低価格で迅速に調査を行えるというメリット
- ただし、標本の代表性という問題が解決されている調査方法ではない

分析に用いた調査

- 事前調査：3つの設問に回答してもらい。被保険者番号を割り振り

問1	あなたは、厚生年金もしくは共済年金に加入しておられますか。
	1. () はい 2. () いいえ 3. () わからない

問1で1 = 第2号被保険者

問1で2 = 問2にすすむ

問1で3 = 対象から除外

問2	あなたは、専業主婦もしくは専業主夫であり、かつ、配偶者は厚生年金もしくは共済年金に加入しておられますか。
	1. () はい 2. () いいえ 3. () 配偶者はいない 4. () わからない

問2で1 = 第3号被保険者

問2で2あるいは3 = 問3にすすむ

問2で4 = 対象から除外

問3	あなたは、大学生もしくは大学院生ですか。
	1. () はい 2. () いいえ

問3で1 = 対象から除外

問3で2 = 第1号被保険者

アウトライン

1. 研究動機
2. 研究動向
3. 分析に用いた調査
4. 分析方法
5. 分析結果
6. 今後の課題



分析方法

- 第1回目の調査と第2回目の調査それぞれで、公的年金制度に対する信頼度を尋ねている。
(いわゆるリッカート尺度)
- Q 日本の公的年金制度に対するあなたの信頼度についておうかがいします。あてはまるものを1つだけお選びください。
 1. 全く信頼できない
 2. あまり信頼できない
 3. どちらでもない
 4. ある程度信頼できる
 5. 完全に信頼できる

分析方法

1. 第2回目の調査において、被調査者をランダムに2群に分ける。
 - それぞれの群の被調査者に年金クイズに回答してもらう。
 - 回答は選択式（1.○， 2.×， 3.わからない）
2. 回答後に . . .
 - 一方の群には、正解と解説を画面上に表示する
 - もう一方には、正解と解説を画面上に表示しない
3. 両群の年金制度に対する信頼度に差が出るか否かを検定

分析方法

- 検定方法

- 比較対象群が2群の場合

- マンホイットニーU検定（有意水準5%，1%）で検定
- ウィルコクソン符号付順位和検定（有意水準5，1%）

- 比較対象群が3群以上の場合

- クラスカル・ウォリス検定（有意水準5，1%）で検定
- 増加（上昇）・減少（下落）傾向を見るために、ヨルクヒール・タプストラ検定も同時に用いる。

- どのようなクイズを出したかについては参考資料を参照

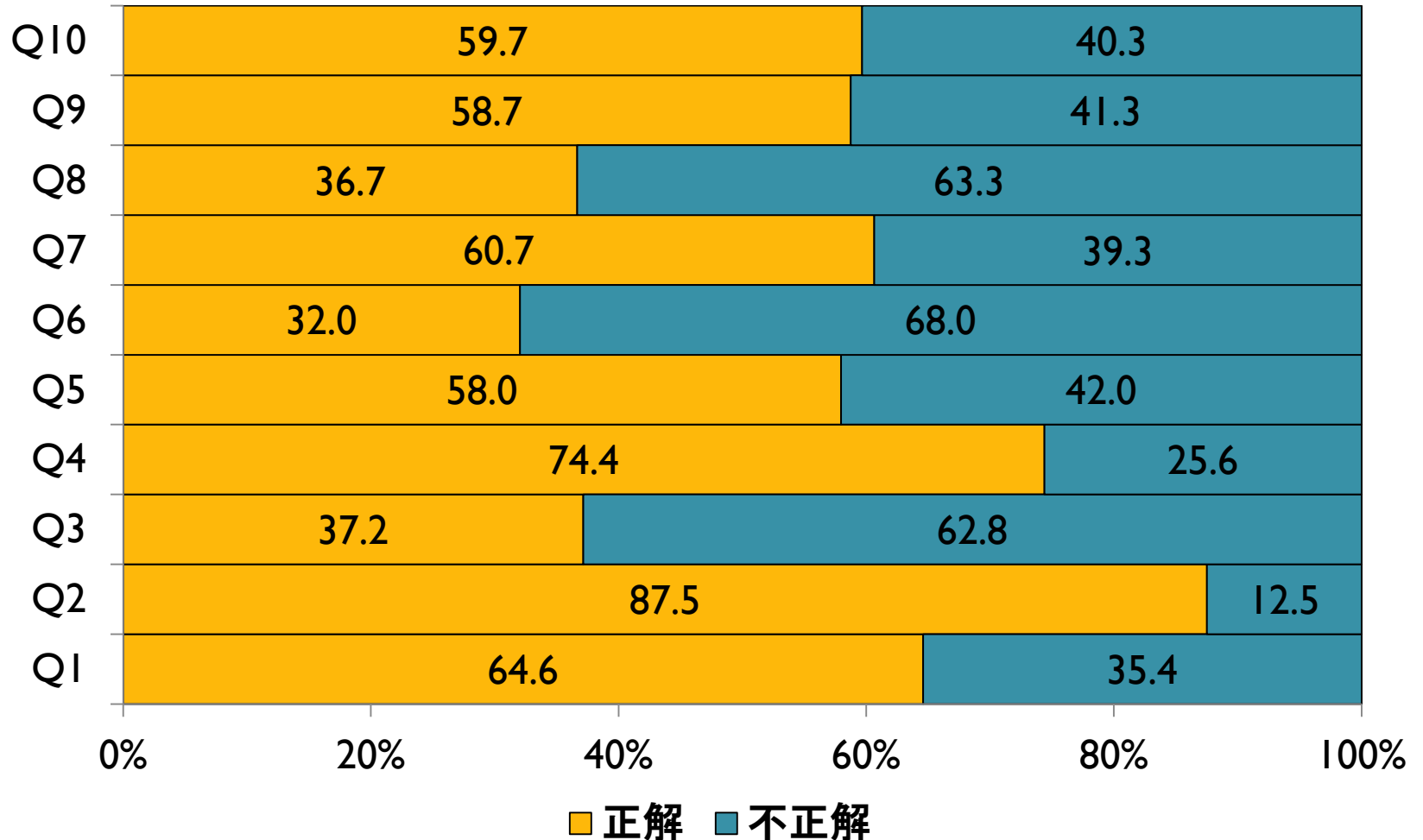
アウトライン

1. 研究動機
2. 研究動向
3. 分析に用いた調査
4. 分析方法
5. 分析結果
6. 今後の課題



分析結果

各設問の正解と不正解（解説表示群のみ）



分析結果

- **正解・解説表示群のみで見ると**
 - 全てのクイズに正解した調査対象者は、60名
(60名 / 2613名 = 2.3%)
 - Q3, Q6, Q8で正答率が低くなっている
- **漠然と,**
 - 厚生年金に加入した場合は国民年金から脱退
 - 自身が払った保険料よりも給付額は少ない
 - 低い納付率による財政悪化で給付額が少なくなる

と認識している人が多いようだ。

分析結果

- 信頼度と年金知識の関係
- 第1回目調査の年金制度に対する信頼度
(両群を比較)
- 5%有意水準で両群に差はない。

順位				
	年金クイズの正解・解説の表示・非表示	N	平均ランク	順位和
年金制度に対する信頼度 (1回目調査)	正解・解説非表示群	2613	2606.782	6811521
	正解・解説表示群	2613	2620.218	6846630
	合計	5226		
検定統計量 ^a				
制度信頼度(1回目)				
Mann-Whitney の U				3396330
Wilcoxon の W				6811521
Z				-0.346
漸近有意確率 (両側)				0.729

a. グループ化変数: 年金クイズの正解・解説表示の有無

分析結果

- 各群で，第1回目調査と第2回目調査で信頼度に変化があったかどうか？
- 第2回目調査の信頼度が第1回目よりも下がった

回答・解説 表示群

順位		N	平均ランク	順位和
年金制度に対する信頼度 (2回目調査)	負の順位	608 ^a	524.420	318850
年金制度に対する信頼度 (1回目調査)	正の順位	483 ^b	573.160	276836
	同順位	1522 ^c		
	合計	2613		
検定統計量 ^d				
	年金制度に対する信頼度(2回目調査) — 年金制度に対する信頼度(1回目調査)			
Z			-2.140 ^e	
漸近有意確率(両側)			0.032	

a. 年金制度に対する信頼度(2回目調査) < 年金制度に対する信頼度(1回目調査)

b. 年金制度に対する信頼度(2回目調査) > 年金制度に対する信頼度(1回目調査)

c. 年金制度に対する信頼度(2回目調査) = 年金制度に対する信頼度(1回目調査)

d. 正の順位に基づく

e. Wilcoxon の符号付き順位検定

分析結果

- 各群で，第1回目調査と第2回目調査で信頼度に変化があったかどうか？
- 第2回目調査の信頼度が第1回目よりも下がった

回答・解説 非表示群

順位				
		N	平均ランク	順位和
年金制度に対する信頼度 (2回目調査)	負の順位	663 ^a	536.970	356009.500
—				
年金制度に対する信頼度 (1回目調査)	正の順位	407 ^b	533.110	216975.500
	同順位	1543 ^c		
	合計	2613		
検定統計量 ^d				
	年金制度に対する信頼度(2回目調査)			
	—			
	年金制度に対する信頼度(1回目調査)			
Z	-7.277 ^e			
漸近有意確率(両側)	0.000			

a. 年金制度に対する信頼度(2回目調査) < 年金制度に対する信頼度(1回目調査)

b. 年金制度に対する信頼度(2回目調査) > 年金制度に対する信頼度(1回目調査)

c. 年金制度に対する信頼度(2回目調査) = 年金制度に対する信頼度(1回目調査)

d. 正の順位に基づく

e. Wilcoxon の符号付き順位検定

分析結果

- 調査の実施間隔は、約2ヶ月程度と短い
- 2回目の調査の方が、全体的に、年金制度に対する信頼度が低下している

《回答・解説**非表示群**》

- 有意水準5%，1%で、第1回目調査と第2回目調査の年金制度に対する信頼度に差が出ている

《回答・解説**表示群**》

- 第2回目調査の年金制度に対する信頼度は第1回目の調査のそれより低下（5%有意水準）
- 1%有意水準では、年金制度への信頼度の低下は否定
- 年金制度に対する信頼度の低下の度合いは非表示群よりも小さいようだ・・・

分析結果

- 両群の第2回目調査の年金制度に対する信頼度の差の検定
 - 正解・解説表示群の信頼度が，非表示群のそれと比較して高い（有意水準5%，1%）

順位				
	年金クイズの正解・解説の表示・非表示	N	平均ランク	順位和
年金制度に対する信頼度(2回目調査)	正解・解説非表示群	2613	2553.702	6672824.5
	正解・解説表示群	2613	2673.298	6985326.5
	合計	5226		
検定統計量 ^a				
			年金制度に対する信頼度(2回目調査)	
	Mann-Whitney の U			3257633.500
	Wilcoxon の W			6672824.500
	Z			-3.061
	漸近有意確率(両側)			0.002

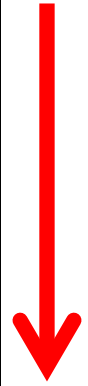
分析結果

- 解説についての理解or納得と信頼度との関係は？
- 正解と解説を表示したのみでは、本当に調査対象者がそれを理解or納得した上で年金制度に対する信頼度を変化させたのかは分からない
- 解説について「納得したか」あるいは「理解したか」を、「全く理解（納得）できない」から「完全に理解（納得）できる」の6段階で尋ねた
- 「理解（納得）した」場合（選択肢4～6）に1点
- 「理解（納得）できなかった」場合（選択肢1～3）に0点
- 合計は最高で10点となり、最低点は0点となる

分析結果

- 傾向を見るためヨルクヒール・タプストラ検定

順位			
	理解度(納得度)	N	平均ランク
年金制度に対する信頼度(2回目調査)	0	17	796.794
	1	14	892.929
	2	32	951.766
	3	47	865.777
	4	76	939.526
	5	142	951.257
	6	186	1029.785
	7	212	1087.991
	8	320	1187.759
	9	409	1352.674
	10	1158	1516.402
合計		2613	
Jonckheere-Terpstra 検定 ^a			
年金制度に対する信頼度(2回目調査)			
理解度納得度 の水準数			11
N			2613
観測された J-T 統計量			1596708.000
J-T 統計量の平均値			1276981.500
J-T 統計量の標準偏差			10884.888
標準化された J-T 統計量			16.015
漸近有意確率(両側)			0.000



a. グループ化変数: 理解度(納得度)

- 理解度・納得度が高いほど信頼度が高くなる傾向を有意水準5%, 1%で確認

分析結果

- 全体的に年金制度に対する信頼度が低下する中で、正確な年金知識の獲得は、年金制度に対する不信に一定程度の歯止めをかけたことを確認
- 年金クイズの正解と年金制度に関する解説を表示した群と表示していない群との間で、年金制度に対する信頼度に有意な差
- 解説に対する理解（納得）度が高いほど制度に対する信頼度が高まることを確認

分析結果

- 調査回答者の年金制度に関する知識が不足している感は否めない
- 年金制度に対する誤解が、信頼度を低くしている面がある
- これまでの研究蓄積において指摘されているように、年金教育や年金制度に関する体系的な情報の普及が政策上重要になると思われる

アウトライン

1. 研究動機
2. 研究動向
3. 分析に用いた調査
4. 分析方法
5. 分析結果
6. 今後の課題



今後の課題

- 少数の設問で，1回限りの年金クイズを実施したのみ
 - 年金教育や年金制度に関する体系的な情報の普及という点では不十分
 - 様々な年金クイズを複数回にわたって出し続けた結果，年金制度に対する信頼度はどうなるか
 - ワンショットではなく，継続的に情報を発信することで信頼度に変化があらわれるか